

主 題：キリストに従って歩む

聖書箇所：使徒の働き 16章16－34節

《今、日本の大学生への伝道のためにアメリカ・カリフォルニア州、ロスアンゼルスにある、グレイス・コミュニティ・チャーチ（GCC）から、9人の短期宣教師が当浜寺聖書教会に来ています。そのチームのリーダーであるアダム・タイソンはマスターズ神学校で学んでいる神学生ですが、今日の礼拝メッセージは彼が担当します。》

どのような困難な状況にあっても私たちが神に従って歩んで行くことができるように、どのようにして私たちはそれを成して行けるのか、ということについて考えて行きましょう。神が私たちに備えてくださっている道はときに非常に困難なときがあります。そのときに経験するいろいろなことを通して、神が何を望んでおられるのかを思い巡らします。それは神の栄光を現わすことですが、そのためにその原則をしっかり保って生きてゆくことは、ときに難しいことです。

今朝は、キリストに従って生きて行くための原則について学んで行きます。それは困難な中にあっても私たちが神に喜ばれる従順な歩みをして行くために必要なことであり、私たちが神から受ける訓練でもあります。そのことを「使徒の働き」16章から学んでゆきますが、その前に「使徒の働き」について少し見て行きます。

「使徒の働き」と訳されているそのギリシャ語は、「偉大な人たちがどのように素晴らしい働きをしたのか」について書かれるときに使われたことばです。これはパウロの親しい友人であり、同行者であったルカによって書かれましたが、彼はまたパウロの主治医でもありました。特に、教会の初まりについて書かれています。教会がどのように成長し、福音がどのように広がっていったのかについて多くのことが記されています。教会の成長とともに、同時にそこには教会に対する迫害もありました。

また、「使徒の働き」に見る大きなテーマというのは、旧約から新約へと移って行くその転換期について記していることです。古い契約から新しい契約へとどのように変わって行くのか、また、イエス・キリストの働きから、その働きが教会へと託されて行くその転換期についても記されています。また、神の選んだ民、イスラエルから教会へとどのように神の働きが変わって行くのかについて、また、神の素晴らしい祝福＝福音＝がユダヤ人だけのものではなく、異邦人にも与えられているものだと気づいて行くことについても記しています。新しい契約の具体的な現われ、すなわち、キリスト者にどのように具体的に適用されて行くのかについても教えています。

使徒2章に記されているように、教会はペンテコステの日に始まりました。使徒たちが福音を語り、人々をいやし、また、さまざまな迫害に耐えてきたことを見ることができます。9章にはパウロの回心が書かれています。異邦人も救いにあずかって行きます。パウロは第1回目の伝道旅行を終了し、16章では第2回伝道旅行の途中でした。この時、パウロは小アジア地方への伝道を願っていました。しかし、神はその摂理によってパウロを別のところへ導かれます。パウロとシラスはピリピへと旅立って行きます。そこでルデヤに出会い福音宣教の働きを始めて行くのです。使徒16章の16－34節から見てゆきましょう。

☆ キリストに従ってゆくための四つの鍛錬

これはクリスチャンが神に従順に歩いていくとき、神から受ける訓練です。

1. 霊的な敵に対し霊的な戦いを挑んで行くこと

クリスチャンが忠実に歩もうとする時、迫害に会います。霊的な敵はさまざまな方法で働きます。祈りが妨げられることもあります。18節「幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、『イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け。』と言った。すると即座に、霊は出て行った。」、この箇所からパウロの霊的戦いの方法を学んで行きましょう。

1) 深い忍耐をもつこと

パウロはピリピで人々にみことばを語りましたが、その間ずっと占いの霊につかれた女奴隷に妨げられていたのです。16、17節に「私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。この女は占いをし、主人たちに多くの利益を得させている者であった。彼女はパウロと私たちのあとについて来て、『この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。』と叫び続けた。」とある通りです。しかし、パウロはすぐに悪霊を追い出すこと

をしないで、ことの成り行きを見守って待ちました。私たちはある状況に置かれたとき忍耐して待つことがなかなかできない者です。神はいろいろな状況を用いてご自身の栄光を現わされますから、忍耐をもって神のわざを見定めることが必要なのです。

2) パウロは確信をもって語りますが、その確信は高慢ではありません。

18節に「イエス・キリストの御名によって」とあります。ここに確信があります。どのような困難の状況からでも、神はその栄光のためにそれを用いられるのです。私たちが誘惑に打ち勝つことができる力は神から与えられているのです。神は敵に勝利するという私たちの確信は II コリント 10：3－5に書かれている通りです。「私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、」。神が悪を打ち破るという確信です。

3) 戦いに挑むための心の備えをすること

私たちの戦いは敵である悪魔に対するものです。エペソ 6：10－18を見ましょう。「10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。14 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、15 足には平和の福音の備えをはきなさい。16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。18 すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」。私たちの霊的武器は神のみことばであり、神の力です。それによって敵に打ち勝つ力を神が与えてくださるのです。

2. 祈りと賛美を用いて忍耐を持続させること

使徒 16：25に「真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。」とあります。ここからも三つのポイントを見ましょう。

1) 他の人たちがその祈りと賛美に耳を傾けます

私たちは順境のときは祈ることも賛美することもたやすいのですが、困難なときはどうでしょう？このパウロとシラスの態度は周りの人たちに大きなインパクトを与えました。困難な中でそれを実行するとき、神がほめたたえられるのです。

2) 神が栄光を受けます

私たちに神が喜び、感謝を与えてくれるからです。

3) 神の大きなわざを見ます

26節を見ると「ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。」と、これは神がすべてを支配しておられるゆえのわざです。神は不思議な力をもって私たちの生涯に働かれます。それゆえ、私たちに神への期待が起こるのです。

3. 私たちはあるゆる時を用いて神を証します

28－34節「28 そこでパウロは大声で、「自害してはいけない。私たちはみなここにいる。」と叫んだ。29 看守はあかりを取り、駆け込んで来て、パウロとシラスとの前に震えながらひれ伏した。30 そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか。」と言った。31 ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と言った。32 そして、彼とその家の者全部に主のことばを語った。33 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。34 それから、ふたりをその家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。」、ここからも三つのことを見ます。

1) 不思議なことが起こっているときはその場に留まっていることが大切

28節にパウロは「私たちはみなここにいる。」と叫んだことが書かれています。そこから脱出しないで、その状況を通して神の栄光を現わすことを願うのです。神のすばらしさを人々に伝える機会とするのです。

2) 神の摂理はどのようなときにも働いているということに気づくこと

それはすべてのことを通して働いているのだと知ることです。

3) 福音を人々に伝える

機会を用いることです。31節「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」とパウロは福音を語っています。私たちはあらゆる機会に福音を語る務めがあります。エペソ5：15、16にはこのように勧められています。「そういうわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。」

4. 私たちが状況から救われることを願うのではなく、救ってくださる方に信頼を置くこと

辛い状況からの救い、ともすれば私たちはそれに心が傾いてしまってよく考えられなくなりますが、それが第一ではなく、神のみこころがなされることを願うべきです。パウロは困難な状況の中で神に仕えることを願いました。人々に福音を宣べ伝えること、そして、救ってくださる方を信頼すること、それが私たちに神が求めておられることです。

1) 神はすべてのことを定めておられます

みことばを見ましょう。詩篇139：16「あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。」。イザヤ45：5-7「わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。6 それは、日の上の方からも、西からも、わたしのほかには、だれもないことを、人々が知るためだ。わたしが主である。ほかにはいない。7 わたしは光を造り出し、やみを創造し、平和をつくり、わざわいを創造する。わたしは主、これらすべてを造る者。」、救い主に信頼を置きます。

2) すべてを益のために神は定められた

ローマ8：28「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」、また、創世記50：20に「あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。」とある通りです。

3) 困難からの解放ではなく、私たちは神から喜びを受けます

たとえ置かれている状況が変わらなくても、神を知っていることの喜びゆえに神に感謝できるのです。神の無限の力に望みがあります。詩篇62篇を見ましょう。私たちのうちには神を喜ばせるものは何もないと知ることです。私たちの希望は神にあるのです。

- 1 私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。私の救いは神から来る。
- 2 神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。私は決して、ゆるがされない。
- 3 おまえたちは、いつまでひとりの人を襲うのか。おまえたちはこぞって打ち殺そうとしている。あたかも、傾いた城壁か、ぐらつく石垣のように。
- 4 まことに、彼らは彼を高い地位から突き落とそうとたくらんでいる。彼らは偽りを好み、口では祝福し、心の中ではのろう。セラ
- 5 私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。私の望みは神から来るからだ。
- 6 神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。私はゆるがされることはない。
- 7 私の救いと、私の栄光は、神にかかっている。私の力の岩と避け所は、神のうちにある。
- 8 民よ。どんなときにも、神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神は、われらの避け所である。セラ
- 9 まことに、身分の低い人々は、むなしく、高い人々は、偽りだ。はかりにかけると、彼らは上に上がる。彼らを合わせても、息より軽い。
- 10 圧制にたよるな。略奪にむなしい望みをかけるな。富がふえても、それに心を留めるな。
- 11 神は、一度告げられた。二度、私はそれを聞いた。力は、神のものであることを。
- 12 主よ。恵みも、あなたのものです。あなたは、そのしわざに応じて、人に報いられます。